

ぼくのすんでいるところは、いろんな木や草、
たくせんの生きものがいる豊かな森。
ぼくたちも昔からずっとここにすんでいました。



1

解説：世界の陸地面積の約3割を占める森林には、
微生物から大型の哺乳類までさまざまな生物が生息しています。
また、人間に多くの恵み(生態系サービス)を与えています。

木が切り取られた後は、何も補えず、
放置されることもあります。これでは、ぼくたちはやめません。
こうして勝手にぼくたちの森から持ち去られたおは、いろいろな国に売られていくそうです。



3

解説：森林減少・劣化の原因には、商業伐採、インフラ開発、農地への転換、
焼畑スタイルの変化、森林火災、違法伐採などがあげられます。

でも、いつからだったか、
勝手に木をたくさん切って持っていったら木がなくなってしまいました。
あちこちで森が消えています。



2

解説：世界では、一年で日本の国土の3分の1にあたる1,300万ヘクタールの森林が
失われています。また、人の手の入っていない森である原生林は、8,000年前に比べ
と5分の1も残っていません。このままのペースで森林が失われると2050年には世界の
GDPの6パーセント分の経済的損失を被るとい試算もあります。

もしかしたらあなたが生きているその材料は、本当は
切り取られずにはなかった木からできたものかもしれません。
毎日使っている紙にも、ぼくたちの森の木が混ざっているかもしれません。



4

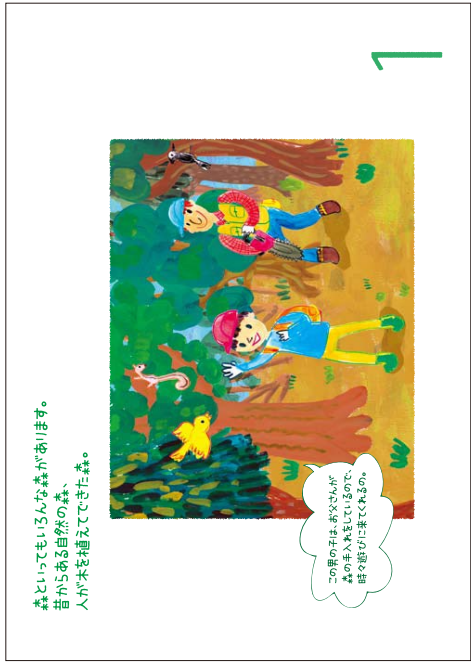
解説：例えば伐採される木材のうち、インドネシアでは7割弱、
極東ロシアでは5割が違法材と推定されています。
これらをあわせると日本に輸入される木材の1~2割程度が違法材ともいわれています。
私たちは、知らないうちに、違法に伐採された木材を原料とした製品を使っている可能性があります。



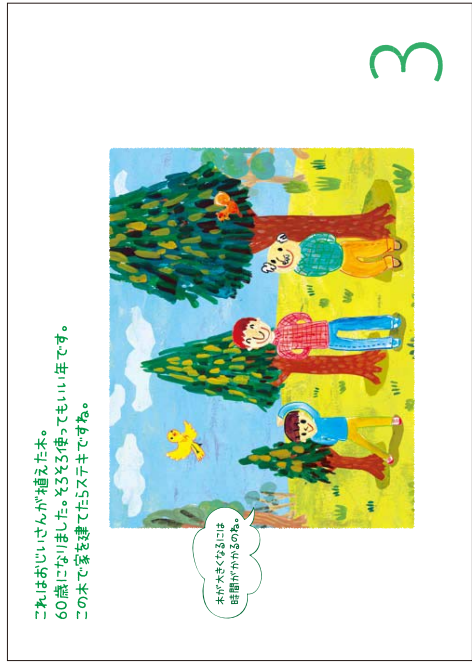
解説：残念ながら、木を見ても違法伐採されているかどうかはわかりません。また、木材の原産地さえもはっきりしないことが多いのです。森をきちんと管理したことを示す認証があるかどうか、製品を作っている企業の姿勢はどうかなどを、住宅、家具、紙などの木材製品を買う時に、私たちが確認する必要があります。



解説：人が植えた森、人工林では間引き（間伐）のような定期的な手入れが必要です。手入れをしないと、木の成長にともない、森が混んできて暗い、荒れた森になってしまいます。天然林（自然の森）から木を切る場合も、すべてを切ってしまうのではなく、切る木を選んだり、切り方を工夫したりするなどの配慮が必要です。



解説：長い歳月を経て、自然にできた森を天然林、人が植えた森を人工林といいます。例えば日本の国土の66%が森林で、その60%が天然林、40%が主に針葉樹で構成される人工林です。



解説：木材は日本が自給できる貴重な資源です。日本の森の毎年の成長量だけでも、日本全体で使っている木材や紙の需要量をほぼ満たすくらいの量があります。しかし、今、私たちが使っている木材・紙の8割が海外からの輸入品で、日本の木材は2割しか使われていません。人工林は、使わないと荒れて、資源としての価値も落ちてしまいます。

こんどお父さんが植えた35年の木を切って、強い椅子を作ります。切った後にはまた新しい苗を植えます。「植えて、育てて、収穫して、上手に使う。木を植える人から、森の手入れが続けられるんですね。」



4

解説：森林は木材を供給するだけでなく、水源や生物多様性を保全し、土砂災害を防ぎ、気候を安定させるなど、さまざまな役割を持っています。これらは「森林の生態系サービス」と呼ばれますが、森が荒れるとこれらの機能も下がってしまいます。

森を壊さないように、管理された森の木をフェアウッドといいます。フェアウッドを採ることは、森づくりに応援することにつながります。



5

解説：フェアウッドは、再利用した木材や近くの山の木材、産地の明らかな木材、合法木材、森林認証材など森を壊さない木材のことです。皆さんの身のまわりで、フェアウッドを探してみてください。木材や紙を選ぶ時には、フェアウッドかどうか、考えてみましょう。